

高等学 校

平成 2 6 年度

# 教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題の設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	4
VI	研究の成果	24
VII	今後の課題	24

(特別活動)	<b>研究主題</b> <b>「自己の特性や能力を集団生活の向上に活用することを通して、思考力・判断力・表現力等を育成し、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための指導と評価の在り方」</b>
--------	--

## I 研究主題設定の理由

今年度の教育研究員の全体テーマ「思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善」を受けて、高等学校の部会共通テーマ「思考力・判断力・表現力等を育むための指導と評価」が設定された。本部会では研究主題を設定するにあたり、「思考力・判断力・表現力等の育成」の定義を明確にすることとした。

高等学校学習指導要領解説総則編第2節改訂の基本方針に次のような記述がある。

基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことの双方が重要であり、(中略)教科等の枠を超えた横断的・総合的な課題について各教科等で習得した知識・技能を相互に関連付けながら解決するといった探究活動の質的な充実を図ることなどにより思考力・判断力・表現力等を育成することとしている。

この改訂の基本方針を踏まえ、本部会は、「基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、それらを活用する中で思考力、判断力、表現力等が育成される」と定義し、特別活動を通じて思考力等を高めつつ、集団や社会の一員としての自主的・実践的な態度を育てるための指導と評価の在り方について研究を深めることとした。

また、本部会では以下に示す平成20年の中央教育審議会答申にある特別活動の改善の基本方針に着目し、研究の方向性について参考とすることとした。

自分に自信が持てず、人間関係に不安を感じていたり、好ましい人間関係を築けず社会性の育成が不十分であったりする状況が見られたりすることから、それらにかかわる力を実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢の子どもたちからなる集団による活動を一層重視する。特に体験活動については、体験を通じて感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表したりする活動を重視する。

本部会の部員が所属する各校の生徒にも、自信の欠如や、人間関係に不安を感じ、望ましい人間関係を築くことができない生徒がいる現状が見られることが確認された。このことから、本部会では、学習指導要領特別活動の目標にも示されている個性の伸長を図ることを通じて、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うこと、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育成することの具現化を目指す中で、生徒の思考力・判断力・表現力等をいかに伸ばすことができるかが重要な課題であると考えた。

以上の経緯を踏まえ、本部会の研究主題を「自己の特性や能力を集団生活の向上に活用することを通して、思考力・判断力・表現力等を育成し、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための指導と評価の在り方」とし、研究を進めることとした。

## Ⅱ 研究の視点

生徒の思考力・判断力・表現力等についての現状を分析し、課題を抽出し、今後特別活動において必要とされる指導と評価の在り方を検討した。

### 1 現状

本部会の研究員が所属する学校の生徒の実態について、以下のような点が挙げられた。

- (1) 集団での話し合い活動等において、自分に自信がもてず、自己の能力を十分に発揮できていない。
- (2) 他人任せで責任から逃れようとする傾向があるため、自ら考え、判断し実行する機会を逃してしまうことが多く、結果として好ましい人間関係を築けないでいる。

### 2 課題

上記の現状から、特別活動における課題を以下のようにまとめた。

- (1) 自己の個性や能力、適性などを十分に理解するとともに、自ら考え、判断することを通して、集団や社会の中で自己が果たす役割の自覚が十分でない。
- (2) 自己の能力を活用し自己実現を図る中で、集団生活の向上のために進んで力を尽くそうとする態度が十分でない。

以上の現状と課題を踏まえ、思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、習得した知識等を活用する場면을意図的・計画的に設定し、評価規準の明確化と評価回数への厳選を図ることを研究の視点とした。

## Ⅲ 研究の仮説

特別活動の目標である「人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ことを達成するため、学習指導要領解説高等学校特別活動編のホームルーム活動の内容にも以下のように記述されている。

自己の個性や適性，長所と短所，興味や関心の動向などを含めて，自己の個性をより正しく理解させるよう，発達の段階や学年の特徴に合わせ，入学から卒業までの期間を見通して系統的，発展的な指導を行う必要がある。

このことから、本部会では自己の個性をより正しく理解させる教育活動を行うことにより、自己を生かす能力が養われると考え、以下のように仮説を設定し、検証した。

### 【仮説】

実践的な体験活動を通じて、自己理解を深め、各自の果たす役割を自覚させるような指導

と評価を行うことにより、自ら考え判断する力が培われるとともに、集団生活の向上に貢献しようとする態度の育成が促進される。

## IV 研究の方法

自己理解を深める手だてとして、本研究実践では他者評価と心理検査（エゴグラム）を取り入れることとした。他者評価は、平成 25 年度高等学校特別活動部会における取組や反省点を参考に本研究に継承することとした。また、心理検査については、自己理解を更に深める手だてとして活用することとした。これは自己理解を深めるためには、「教育相談やカウンセリングの手法などを活用すること」も大切であると高等学校学習指導要領解説特別活動編に示されていることを参考とした。なお、心理検査の中で、自己成長エゴグラム（以下エゴグラム）を活用したのは、実施が簡易で分析結果が分かりやすいことが理由である。加えて、授業前後に実施したアンケートでは、様々な教育活動の場面で活用できるよう汎用性の高いワークシートを用いた。さらに、指導と評価の一体化の観点から、評価規準を吟味し、評価項目を厳選した。なお、データの分析については統計学的手法を用いて研究を行った。

### 1 指導

思考力等の育成を図るため、自己理解に関わる知識等の習得とそれらを活用する場面を意図的・計画的に設定した。本部会では前者を自己理解や自己の果たすべき役割の自覚、後者を集団生活の向上に向け自己の能力等を生かし、自己実現を図ることとした。

#### (1) 事前ワークシートでの自己理解

指導前の自己理解の度合いを確認するための質問項目に答える。

#### (2) エゴグラムを用いた客観的評価

客観的に自分の良い性格を捉えるため、簡便な質問紙を用いた心理検査を行う。

#### (3) 話し合い活動での相互評価

他者からの視点で自己の良い面を捉えるため、4名を単位としたグループ活動を行う。

具体的には、それぞれの良い面を付箋に記入し、その付箋を交換しながらコメントを伝える。

#### (4) 事後ワークシートでの振り返り

事前ワークシートに対応した事後ワークシートの質問項目に答え、指導後の自己理解の度合いの変化を確認する。また、集団や社会の中で自己を生かす能力を養えたかも確認する。

なお、指導の際には、自己の良い面に焦点を当て、心理検査や他者評価で得られた自己の特徴や傾向は決定的なものではなく、あくまでも一例であることを丁寧に説明するよう心掛けた。

### 2 評価

上記のワークシートを読み解くことにより、指導の効果として事前・事後ワークシートの各アンケート項目の回答割合の変化を評価した。評価の過程では、統計学的手法を用いた検定を行い、指導によって生徒に有意な自己理解の変容が起こったかを判定した。このことにより、本研究実践で用いた指導方法の効果を検証した。

## V 研究の内容

### 1 研究構想図

全体テーマ **「思考力・判断力・表現力等を高めるための授業改善」**

高校部会テーマ **「思考力・判断力・表現力等を育むための指導と評価」**

#### 現状と課題

##### 【現状】

- ・自分に自信がもてず、自己の能力を十分に発揮できていない。
- ・人間関係に不安を感じ、好ましい人間関係が築けないなど、社会性の育成が不十分である。

##### 【課題】

- ・自己の個性や能力、適性などを十分に理解するとともに、自ら考え、判断することを通し、集団や社会の中で自己が果たす役割の自覚が十分でない。
- ・自己の能力を活用し自己実現を図る中で、集団生活の向上のために進んで力を尽くそうとする態度が十分でない。

#### 特別活動部会主題

自己の特性や能力を集団生活の向上に活用することを通して、思考力・判断力・表現力等を育成し、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための指導と評価の在り方

#### 仮 説

実践的な体験活動を通じて、自己理解を深め、各自の果たす役割を自覚させるような指導と評価を行うことにより、自ら考え判断する力が培われるとともに、集団生活の向上に貢献しようとする態度の育成が促進される。

#### 具体的方策

- ・心理検査を取り入れたワークシート等を活用し、自己理解を深める。
- ・話し合い活動等を通じて互いのよさを認め合い、各自の果たす役割を自覚する。
- ・自己理解を深める諸活動を経て、自己の能力等を集団生活の向上にどう役立て自己実現を図るかについてワークシートに記入し発表する。

#### 評価・検証

学習の前後に行うワークシート等の分析を、より科学的なアプローチ（統計学的手法）を用いて行うなど、生徒の自己理解の深まり及び、各自の果たす役割の自覚、集団生活の向上に貢献しようとする態度の変容を促すための指導と評価について検証する。

## 2 実践事例

本会で用いている手法を様々な教育活動で活用できるように以下の2点に留意し、ワークシートを作成した。

- アンケート項目における団体名等を微調整するだけで、あらゆる活動にこのワークシートを用いることが可能である。
  - あらゆる活動に対応することを前提に、ホームルーム活動における授業等で一般的な50分での実践を行い、この結果を分析・考察した。分析には統計学的手法を用いた。
  - 以下の心理検査(エゴグラム)を取り入れたワークシートを用いて自己理解を図った。
- ※**[ ]**部分については、次ページに活用例を示した。

### エゴグラム (SGE) をやってみよう

自分発見のために、次の50問に答えてください。

「はい」には ○  
「どちらでもない」には △  
「いいえ」には X

をつけてください。あまり考え込まずに答えて、できるかぎり△を避けてください。

※50問の解答時間は5分間とします。

**CP**

1. 間違ったことに対して、間違いだといひます。
2. 間違いを守らないことは嫌です。
3. 規則やルールを守ります。
4. 人や自分をとがめます。
5. 「へやべきである」「へやばらない」と思ひます。
6. 決めたことは最後まで守らないと気がすみません。
7. 借りたお金を帰還までに返さない気がなります。
8. 約束を破ることはありません。
9. 不正なことには参加しません。
10. 無責任な人を見ると許せません。

CP計

**A**

1. 例でも、例が中心問題が考え直します。
2. 物事を分析して、事実に基づいて考えます。
3. 「なぜ」そんなの理由を推測します。
4. 情緒的というより理論的です。
5. 新聞の社会面などには関心があります。
6. 結果を予想して、準備をします。
7. 物事を冷静に判断します。
8. わからないときはわかるまで追求します。
9. 仕事や生活の予定を記録します。
10. ほかに人ならどうするだろうかと思察します。

A計

**NP**

1. 思いやりがあります。
2. 人をほめるのが上手です。
3. 人の顔をよく見てあげます。
4. 人の気持ちを考えます。
5. ちょっとした贈り物でもしたいほうです。
6. 人の失敗には寛大です。
7. 世話好きです。
8. 自分から頼りかたをいさします。
9. 困っている人を見ると助けてあげます。
10. 子どもや目下の人を可愛がります。

NP計

**FC**

1. してみたいことがいっぱいあります。
2. 気分転換が上手です。
3. よく笑ひます。
4. 好奇心が強いほうです。
5. 物事を明るく考えます。
6. 茶目っ気があります。
7. 面白いことが好きです。
8. 将来の夢や楽しいことを空想するのが好きです。
9. 趣味が豊かです。
10. 「わー」「へー」などの感嘆詞を使ひます。

FC計

**AC**

1. 人の気持ちが変わって、あわててしまいます。
2. 人前に出るより、後ろに引込んでしまいます。
3. よく後悔します。
4. 相手の顔色をうかがひます。
5. 不愉快なことがあつても口に出さず、押さえてしまいます。
6. 人にはよく思われようと願ひます。
7. 協調性があります。
8. 遠慮がちなです。
9. 周囲の意見に振り回されます。
10. 自分が悪くないのに、すぐ謝ります。

AC計

**《集計方法》**

○は2点、△は1点、×は0点とし、CP～ACの各群の合計点を算出します。その結果を下の図1、SGEプロフィール上に、男性は左側の太い数字、女性は右側の細い数字をチェックします。

チェックした5つのデータを折れ線で結んでください。これがあなたのSGEパターンです。

**《表の見方》**

各群には、以下のような傾向があると考えられます。

CP: 父系的で理窟を重んずる自己状態  
理想の追求 運理的・論理的 習性をわかまえる

NP: 母系的でやさしく情緒好きな自己状態  
温かさ 情緒的・長期的 他人への思いやり・愛情

A: 成人としてのスタイルで合理的な自己状態  
情報の収集・分析 客観的・現実的 現実的判断  
計算・工夫

FC: いつも感じるハイソチヤな子供の自己状態  
自由奔放・明るい 創造的・風流的・好奇心  
天真爛漫

AC: 肩やを背づからライイ子な子供の自己状態  
率直 協同的・適応性 他人を信頼

図1 SGEプロフィール

SGEとは自己成長エゴグラム(Self Growth Ego)の略で、自分発見の方法や対人関係を円滑にするために広く用いられている「交感分析」という心理検査の一種です。わかりやすい自分発見の方法として、教育の場や企業研修で用いられるほか、心療内科でも患者さんの理解や治療に用いられています。

50問の問題にあるCPやNPなどの群は、あなたの心の状態や行動パターンを表します。簡単に次の項目であなたの良いところを見つけてみましょう。

**《自分の良さとは?》**

※話し合いを促します

SGEによって示された自分の傾向

仲間から伝えられた自分のよさ その①

仲間から伝えられた自分のよさ その②

仲間から伝えられた自分のよさ その③

引用文献  
片岡 隆雄 『自分からわかる心理テスト PART2』  
講談社ブルーバックス B-1063 1995年

※ **[ ]**内<自分の良さとは?>以外の部分については、「自分がわかる心理テストPART2」(芦原睦 監修) 講談社ブルーバックス B-1063 1995年 より引用

エゴグラムの活用例

※前ページの  部分

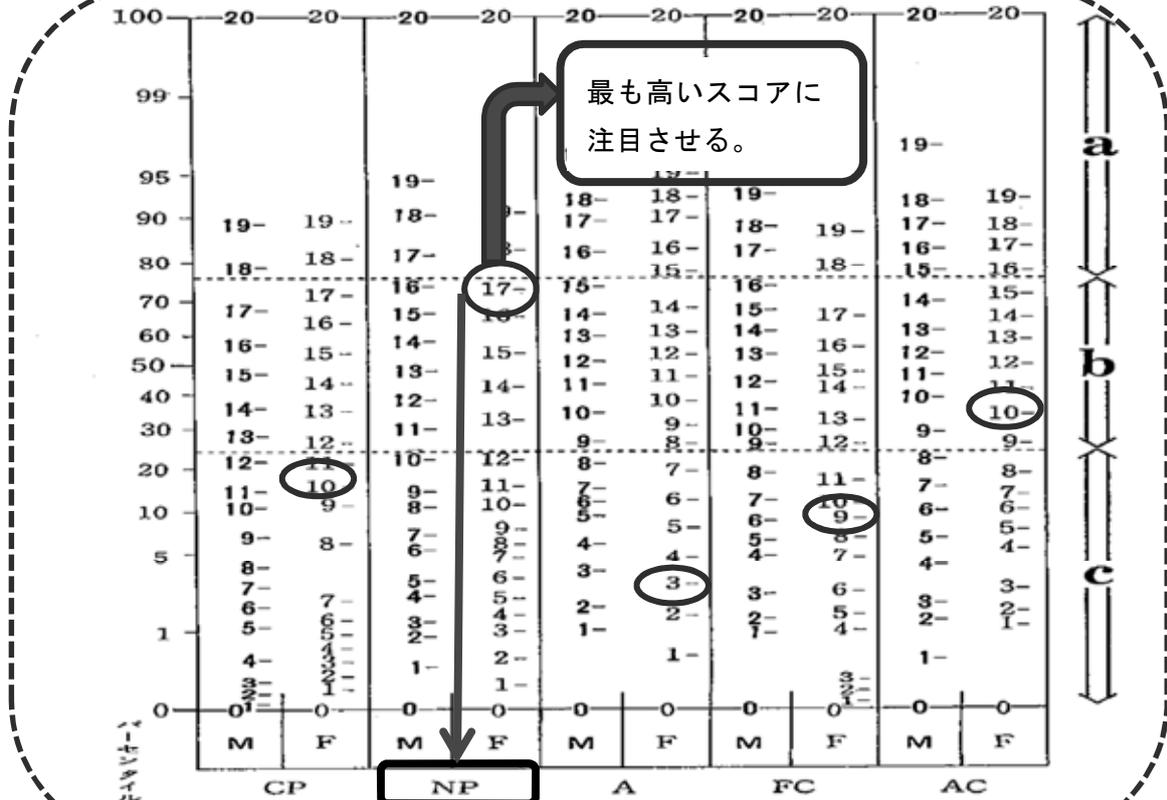
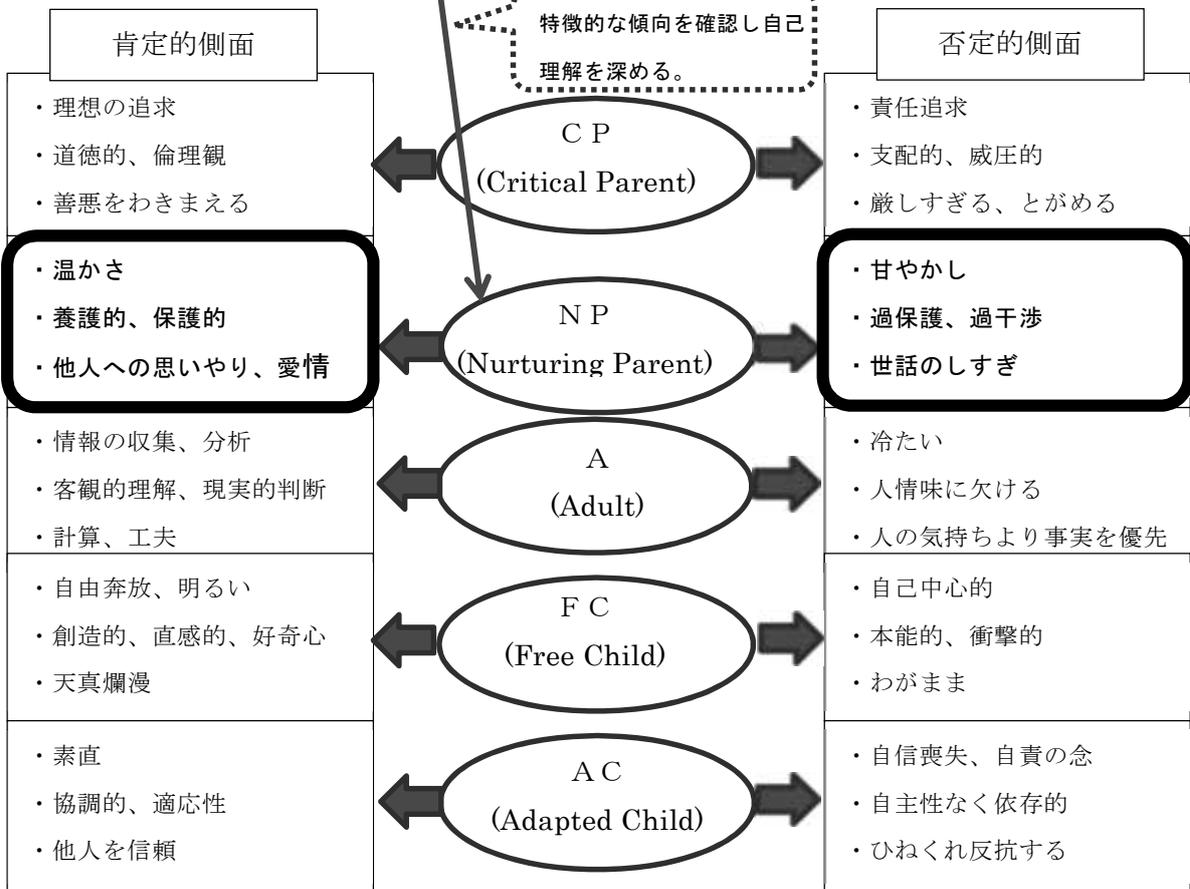


図1 SGEプロフィール



※交流分析における自我状態例 「自分がわかる心理テスト PART2 芦原 睦」より

(1) 実践事例 1

教科等名	特別活動	科目名	ホームルーム活動	学年	1 学年
------	------	-----	----------	----	------

ホームルーム活動を通して、ワークシートを活用し、自己理解等を深められるかを検証する。また集団生活の向上のために進んで力を尽くそうとする態度を養うために、他者評価を行うことで、自己の個性や能力を更に理解できるかを検証する。また、事前・事後のワークシートの分析から、実際にどのような変化が生徒に見られたかを検証する。

ア 題材名

ホームルーム活動 「自己理解を深め、集団生活に貢献する態度を身に付けよう」

イ 題材の目標

- (ア) 心理検査等を通して、生徒一人一人が自己の個性や能力をより深く知ることにより自信をもたせる。
- (イ) 自己理解と他者理解を通して、集団生活の中での自己の役割を確認する。
- (ウ) 互いに認め合うことで、進んで集団生活に貢献しようとする態度を育成する。

ウ 題材の評価規準

観点	ア 集団活動や生活への関心・意欲・態度	イ 集団の一員としての思考・判断・実践	ウ 集団活動や生活への知識・理解
評価規準	① 自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、自主的、自律的に日常の生活を送ろうとしている。	① 他の生徒の意見を尊重して受け止め、自己を振り返っている。 ② ホームルームや学校の一員として自己の役割を自覚するなど、自己を生かしながら、よりよい生活への貢献について考え、判断し、実践している。	① 集団や社会への適応を踏まえ、自己の資質や能力について理解している。

エ 題材の指導と評価の計画（2時間扱い）

時 間	学習内容	学習活動	評価規準
第一時	自己・他者理解	・エゴグラムの実施による自己理解の促進 ・他者のよさについて発表し合う。	・ウ① (ワークシート) ・イ① (ワークシート・観察)
第二時	集団生活における自分の役割の把握	・集団生活の中の役割について考える。 ・自分の果たす役割について考え、発表する	・ア① (ワークシート・観察) ・イ② (ワークシート)

オ 本時（全2時間中の1時間目）

(ア) 本時の目標

心理検査等を通し、生徒一人一人が自己の個性や能力をより深く知ることにより自信をもたせる。また、互いに認め合うことで、進んで集団生活に貢献しようとする態度を育成する。

(イ) 本時の展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶、出欠を確認する。</li> <li>・本時の学習内容・ねらいを確認する。</li> </ul>		
展開	35分	<p><b>【ワークシートの記入】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの配布後、アンケートに記入する。</li> </ul> <p><b>【エゴグラムの実践】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エゴグラムの説明を聞き、活用方法を理解する。</li> <li>・各自でエゴグラムを行う。</li> <li>・エゴグラムの見方について確認する。</li> <li>・エゴグラムの結果、最も顕著な自分の行動の傾向を見付ける。</li> </ul> <p><b>【グループ活動・相互評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ分けを行う。</li> <li>・自分以外のグループの仲間のよさについて考え、付箋に記入する。</li> <li>・一人ずつ順番に仲間から自分のよさを聞き、付箋を受け取る。</li> <li>・最も高かった自分のエゴグラムの結果を発表する。</li> <li>・自己理解について実感したことや、新たな視点等について、意見を伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明は簡潔に行う。</li> <li>・性格等を決定付けるものではないことを説明する。</li> <li>・自分の良い面に注目するよう指示する。</li> <li>・仲間の短所ではなく、よさをうまく見付けるよう促す。</li> </ul>	(イ) ① (ワークシート・観察)
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに本時の振り返りを記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エゴグラムと仲間の意見を振り返り、多面的に自己理解等を深めさせる。</li> </ul>	(ウ) ① (ワークシート)

カ 本時の振り返り

- (ア) エゴグラムを行うことで、今まで気付かなかった新たな自分を発見する生徒や、自己認識と一致し、更に自己理解を深めた生徒もいた。また、それぞれが自分の特性を知るきっかけ作りとなった。
- (イ) 教師側でグループを決め、グループ内で相互に他の生徒の良い面に注目したコメントを記入させ、生徒一人一人に自分の良い点について発表させた。全員の生徒がグループ内の他の生徒の良い点を挙げる事ができた。また、他の生徒から自分の良い点を指摘されることで、ホームルーム内で生徒それぞれが互いに興味や関心をもち、日々の生活を送っていることを認識できた。

(資料1) 実践事例1 ワークシート記入欄(エゴグラムの結果・仲間からの意見)

*話し合いをメモしよう	*話し合いをメモしよう	*話し合いをメモしよう	
SGEによって示された自分の傾向 NP	SGEによって示された自分の傾向 理想の道手、道徳的・倫理的 善悪をわきまえる	SGEによって示された自分の傾向 友人としての クールで合理的な自己状態	エゴグラムの 結果
まじマジメ!	真面目でしっかり者!!!	教科書見してくれた。	仲間からの 意見
正確、びく、全体的にしっかり	思いやりがある	話を聞かせてくれる。	
いっけいなおさまがゆ	優しい 冷静	がましい。しっかりしてる。 みんながほわほわしてる。笑顔で、 強い。(全部はめらう。)	
生徒①	生徒②	生徒③	

(資料2) 実践事例1 ワークシート記入欄(事後ワークシート自由記述欄)

生徒①	エゴグラムを通して、自己発見や自己理解について感じたこと、気付いたことなど記入してください。 自分のよさは、おもしろいから行けたけど、エゴグラムを通して 自分のよさを知られて良かったです。
	仲間の意見を通して、自己発見や自己理解について感じたこと、気付いたことなど記入してください。 話し合いでは、自分が思っていたが、マジメで しっかりしているという意見が多くて良かったと思います。
生徒②	エゴグラムを通して、自己発見や自己理解について感じたこと、気付いたことなど記入してください。 エゴグラムの結果が自分の思っているのと違い、驚いた。
	仲間の意見を通して、自己発見や自己理解について感じたこと、気付いたことなど記入してください。 あまり、自分のことが理解できていなかったと思う。
生徒③	エゴグラムを通して、自己発見や自己理解について感じたこと、気付いたことなど記入してください。 自分より、まじかたりようねとこころから涙も発見できて 他の人に見てもらえることも大切だと思いました。
	仲間の意見を通して、自己発見や自己理解について感じたこと、気付いたことなど記入してください。 他の人に見てもらえることにより、新しい自分を発見できて、 するので、今回のを通して、このようなことも大切だと思った。

(資料3) 自己理解等の認識の程度をみるワークシート (授業の開始時と終了前に実施)

ワークシート～自己理解を深めよう～	ワークシート～この授業の振り返り～
<p>各質問について当てはまる番号を選び、○で囲ってください。</p> <p>①:当てはまらない ②:あまり当てはまらない ③:やや当てはまる ④:当てはまる</p> <p>※具体例・理由がある場合は、各設問の下にある欄に記入すること。</p> <p>① 自分のよさが分かっていると思う。</p> <p>1 ----- 2 ----- 3 ----- 4</p> <p>具体例・理由</p> <p>② ホームルームの中で各自のよさを認め合っていると思う。</p> <p>1 ----- 2 ----- 3 ----- 4</p> <p>具体例・理由</p> <p>③ ホームルームの中で自分のよさが認められていると思う。</p> <p>1 ----- 2 ----- 3 ----- 4</p> <p>具体例・理由</p> <p>④ ホームルームや学校の中で役に立てることがあると思う。</p> <p>1 ----- 2 ----- 3 ----- 4</p> <p>具体例・理由</p> <p>⑤ ホームルームや学校の中で自分のよさを生かそうと思っている。</p> <p>1 ----- 2 ----- 3 ----- 4</p> <p>具体例・理由</p> <p>自分のよさはどんなところができるに付多く書いてみよう。</p> <p>_____ _____ _____ _____</p>	<p>各質問について当てはまる番号を選び、○で囲ってください。</p> <p>①:当てはまらない ②:あまり当てはまらない ③:やや当てはまる ④:当てはまる</p> <p>※具体例・理由がある場合は、各設問の下にある欄に記入すること。</p> <p>① 自分のよさが分かっていると思う。</p> <p>1 ----- 2 ----- 3 ----- 4</p> <p>具体例・理由</p> <p>② ホームルームの中で各自のよさを認め合っていると思う。</p> <p>1 ----- 2 ----- 3 ----- 4</p> <p>具体例・理由</p> <p>③ ホームルームの中で自分のよさが認められていると思う。</p> <p>1 ----- 2 ----- 3 ----- 4</p> <p>具体例・理由</p> <p>④ ホームルームや学校の中で役に立てることがあると思う。</p> <p>1 ----- 2 ----- 3 ----- 4</p> <p>具体例・理由</p> <p>⑤ ホームルームや学校の中で自分のよさを生かそうと思っている。</p> <p>1 ----- 2 ----- 3 ----- 4</p> <p>具体例・理由</p> <p>エゴグラムを通して、自己発見や自己理解について感じたこと、気づいたことなど記入してください。</p> <p>_____ _____ _____ _____</p> <p>仲間の意見をを通して、自己発見や自己理解について感じたこと、気づいたことなど記入してください。</p> <p>_____ _____ _____ _____</p>
<p>※この部分の文言を代えることで様々な活動に活用できる。</p>	
<p>年 月 日 氏名</p>	

## キ ワークシートの結果

### (ア) 結果の分析方法

本研究実践で行ったワークシートの結果を以下に示す。始めに、各結果について、本部会がワークシートを読み解く中で示した仮定やグラフ等の見方について説明する。

#### ワークシートから読み取れる研究実践前の生徒集団の特徴

本部会では、事前アンケートの全回答(全生徒・全項目)の平均値を、この集団に属する生徒の自己理解等を示す特徴的な値(以下「特徴値」)として位置付けた。

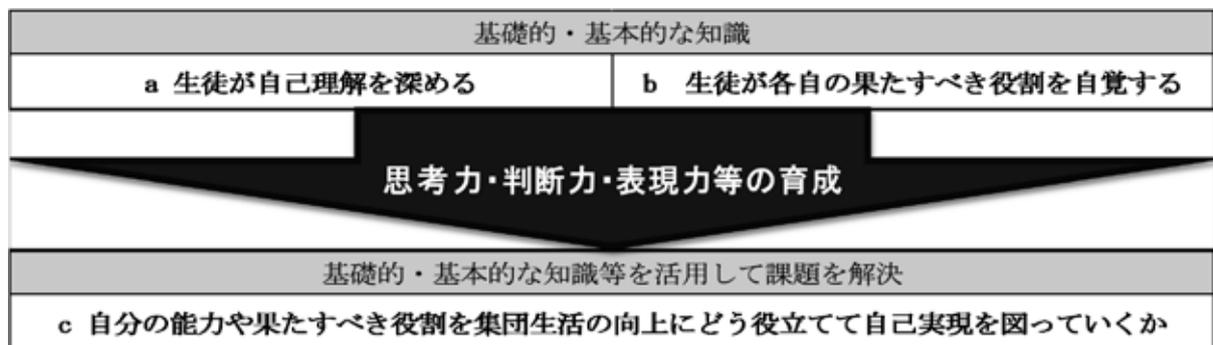
アンケートの回答は1、2、3、4と、自己理解等が進んだ状態になるほど数値が大きくなる尺度となっている。このため、アンケート回答の平均値  $2.5(1+2+3+4 \text{ を } 4 \text{ で割る})$  は、

自己理解等が進んだ状態とそうでない状態の中間を示す値と言える。

本部会では、「特徴値」が 2.5 よりも大きい生徒集団は自己理解等が概ね図られた集団であり、また「特徴値」が 2.5 よりも小さい生徒集団は自己理解等が比較的図られていない集団であると仮定した。

#### 事前・事後アンケートにおける回答割合の比較

本部会では、授業の始めと終わりにアンケートを行い、同じ項目における回答の占める割合を比較した。この結果から以下に示すチャートの項目(a、b、c)に対して本研究実践が及ぼす教育的効果を分析した。仮説で述べたとおり、本部会では自己理解及び各自の果たすべき役割の自覚を深めることを通して、集団生活の向上と自己実現にどう結び付けるか考える過程で思考力・判断力・表現力等が育成されると考えている。



〈グラフ 1〉(P12)は、事前・事後アンケートの集計結果の人数比[%]を積み上げ棒グラフで併記したものである。グラフの下に、実践を通して特に変化のあった点について記した。

また、全てのアンケート項目について、事前・事後アンケートの回答群に対し Wilcoxon の符号付順位和検定を行った。この作業で求めた※p 値によりアンケート結果を分析することで、変化が統計学的に有意であるかどうか確認した。

※ p 値とは、統計学において「検出された変化が偶然起こる確率」を表す値である。例えば、p 値が 0.1 (=10%) の場合、「その変化が偶然起こりうる確率は 10 回に 1 回程度」であること表す。

統計学の慣習で、通常 p 値の基準としては 0.05 (=5%) が用いられることが多い。つまり、「その変化が偶然起こりうる確率が 100 回に 5 回程度」ならば、「その変化は統計学的に意味がある」ということである。

例：p 値 0.03 の場合 → 統計学的に有意である (有意水準 3%)。

p 値 0.1 の場合 → 統計学的に有意とは認められない (有意水準 10%)。

#### (イ) 実践事例 1 の結果

##### ○ ワークシートから読み取れる実践前の生徒集団の特徴

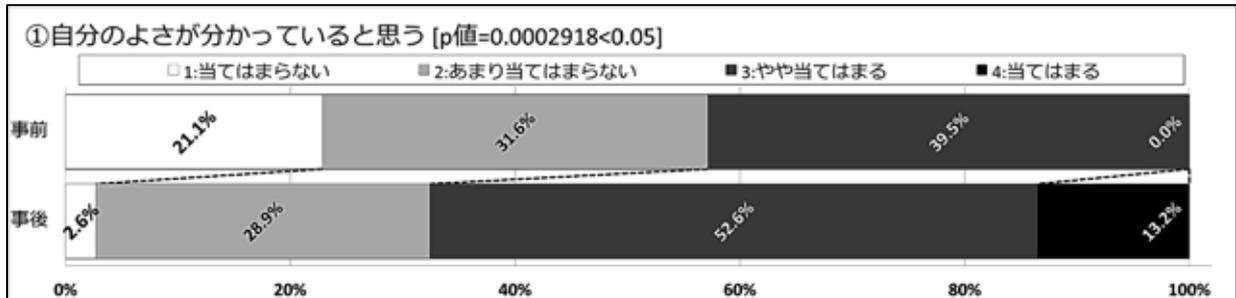
実践対象となった生徒集団の特徴値は 2.11 であった。従って、「自己理解等が比較的図られていない生徒集団」であったと言える。

※本部会では特徴値が 2.5 より小さい場合は「自己理解等が比較的図られていない」と仮定したため。(P10 「特徴値」参照)

### 事前・事後アンケートにおける回答割合の比較

心理検査や他者評価の実践における事前・事後アンケートの結果を以下に示す。

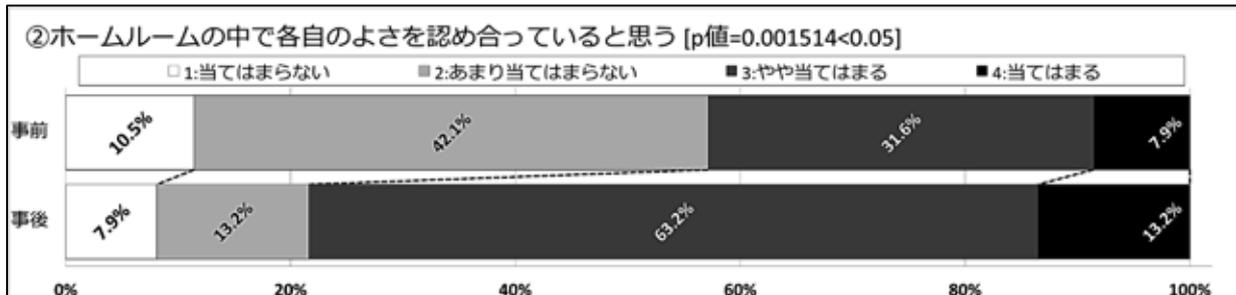
<グラフ 1-①>



<グラフ 1-①>の特徴

①より「自分のよさが分かっていると思う。」という項目に「やや当てはまる・当てはまる」と答えた、自己理解が概ね図られている生徒が 39.5%→65.8% (+26.3%) へと約 1.7 倍に増加した。また、「当てはまらない」と答えた、自己理解が十分図られていない生徒が 21.1%→2.6% (-18.5%) へと約 9 分の 1 に減少した。

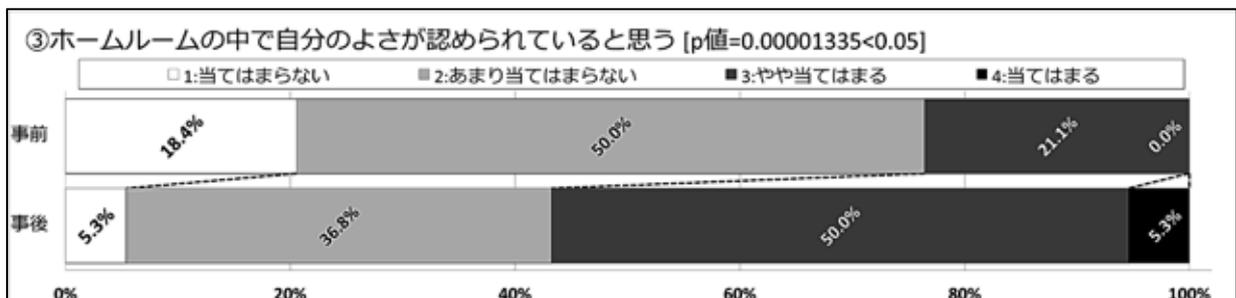
<グラフ 1-②>



<グラフ 1-②>の特徴

②より「ホームルームの中で各自のよさを認め合っていると思う。」という項目に「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が 39.5%→76.4% (+36.9%) へと約 2 倍に増加した。また、「当てはまらない」と答えた、自己理解等が十分図られていない生徒が 10.5%→7.9% (-2.6%) へと約 5 分の 4 に減少した。

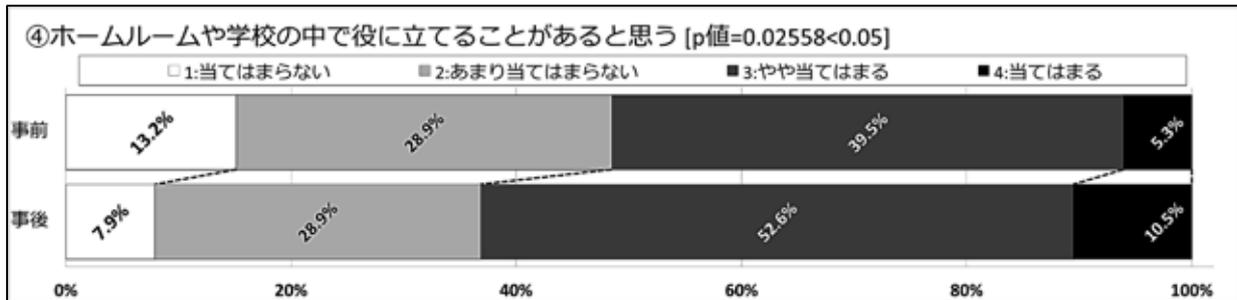
<グラフ 1-③>



〈グラフ1-③〉の特徴

③より「ホームルームの中で自分のよさが認められていると思う。」という項目に「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が 21.1%→55.3% (+34.2%) へと約 2.6 倍に増加した。また、「当てはまらない」と答えた生徒が 18.4%→5.3% (-13.1%) へと約 3 分の 1 に減少した。

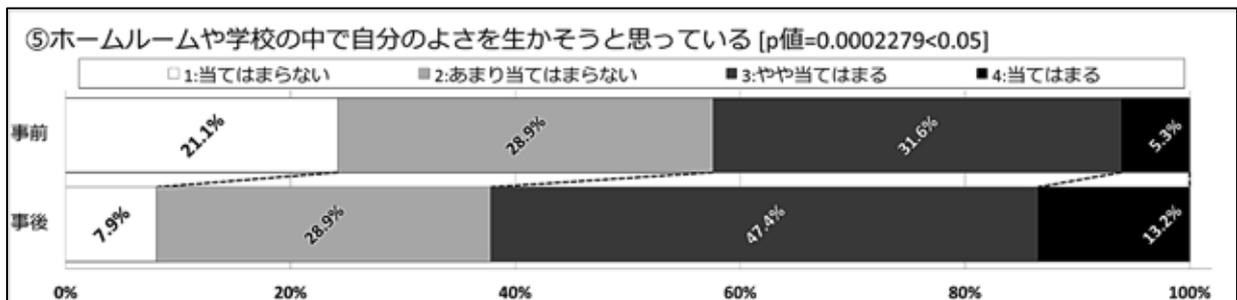
〈グラフ1-④〉



〈グラフ1-④〉の特徴

④より「ホームルームや学校の中で役に立てることがあると思う。」という項目に「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が 44.8%→63.1% (+18.3%) へと約 1.4 倍に増加した。また、「当てはまらない」と答えた生徒が 13.2%→7.9% (-5.3%) へと約 3 分の 2 に減少した。

〈グラフ1-⑤〉



〈グラフ1-⑤〉の特徴

⑤より「ホームルームや学校の中で自分のよさを生かそうと思っている。」という項目に「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が 36.9%→60.6% (+23.7%) へと約 1.6 倍に増加した。また、「当てはまらない」と答えた生徒が 21.1%→7.9% (-13.2%) へと約 3 分の 1 に減少した。

## ク 考察

### 事前・事後アンケートにおける回答割合の比較

本研究実践の対象となった生徒は、結果で示した通り「特徴値が 2.5 より小さい」つまり、どちらかというとき自己理解等が比較的図られていない集団であると本部会では仮定した。

以下では、具体的方策に示した 3 点 (a 生徒の自己理解を深めさせる。b 生徒に各自の

果たす役割を自覚させる。c 自分の能力や果たすべき役割を集団生活の向上にどう役立てて自己実現を図っていくか深く考えさせる。) について、アンケート項目との対応関係を下表のように分類した。

具体的方策に示した3点	該当のアンケート項目
a  生徒の自己理解を深めさせる。 (生徒個人としての自己理解)	①自分のよさが分かっていると思う。 ③ホームルームの中で自分のよさが認められていると思う。
b  生徒に各自の果たす役割を自覚させる。 (集団の一員としての自己理解)	②ホームルームの中で各自のよさを認め合っていると思う。 ④ホームルームや学校の中で役に立てることがあると思う。
c  自分の能力や果たすべき役割を集団生活の向上にどう役立てて自己実現を図っていくか深く考えさせる。	⑤ホームルームや学校の中で自分のよさを生かそうと思っている。

仮説及び具体的方策で示した通り本部会では、特別活動における「思考力・判断力・表現力等」は自己理解の深化と自己の役割の自覚を踏まえ、集団生活の向上に向けて自己実現を図ろうとする過程で培われると考える。以下、上記の表を基に考察を述べる。

<a 生徒の自己理解を深めさせる。(生徒個人としての自己理解) >

質問①「自分のよさが分かっていると思う。」について「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が、本研究実践後のアンケートでは26.3%増の約1.7倍に増加し、エゴグラムの実践が自己理解を深めることについて一定の効果があることが確認できた。注目すべきは、エゴグラムの実践前に「当てはまらない」と答えた、自己理解があまり図られていないと感じていた生徒の数が、エゴグラムの実践後のアンケートでは18.5% (9分の1に) 減り、自己理解が深まったと感じた生徒が大幅に増加したことである。P9にある生徒の自由記述(資料2)からも、エゴグラムの結果について、「自分のよさはあまり分からなかったが、エゴグラムを通して自分のよさを知れて良かった。(生徒①)」「エゴグラムの結果が自分の思っているのと違い驚いた。(生徒②)」「自分では気付かないようなところが沢山発見できた(生徒③)」など、今まで考えもしなかった新しい自分を発見するなどの体験を通じて、自己理解が深まったと考えられる。

質問③「ホームルームの中で自分のよさが認められていると思う。」では、「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が、本研究実践後のアンケートでは34.2%増の約2.6倍に増加した。これは、他者評価により自分が考えていた自己の特徴や個性、または自分が考えもしなかった自己の個性等について、他者から肯定的な指摘(評価)を受けたことにより、集団の中で自分のよさが認められていることを実感したことが原因であると思われる。P9にあ

る生徒の自由記述からも、他者評価（資料1）には「まじめでしっかり者」「思いやりがある」などの肯定的なコメントが寄せられ、それらの評価を受けた生徒の記述（資料2）にも「自分が思っていなかったが、まじめでしっかりしているという意見が多くてよかったと思います。（生徒①）」「あまり自分のことが理解できていなかったと思う。（生徒②）」「新しい自分が発見できた。（生徒③）」と仲間の意見を受け入れ、自分のよさに自信をもつなど効果があったと考えられる。また、このことは、自己肯定感を高めるとともに、特別活動の目標にあるよりよい人間関係の構築にも寄与するものと考えられる。

<b 生徒に各自の果たす役割を自覚させる。（集団の一員としての自己理解）>

質問②「ホームルームの中で各自のよさを認め合っていると思う。」では、「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が、本研究実践後のアンケートでは36.9%増の約2倍に増加した。しかし、「当てはまらない」と答えた生徒は、本研究実践後のアンケートにおいて2.6%の減少であり、他の質問項目との比較でも最も減少の割合が少ない結果となった。この原因の一つとして、仲間は自分のことをよく理解しているが、自分は仲間のことをあまりよく理解できていないと感じている生徒がいることが考えられる。これは、生徒の本研究実践後のアンケートの自由記述に「自分が考えていたよりいい感じで思われていてうれしかった。自分は他人を見る目がない。」などに類する記載が複数見られたことから推測するに至った。

質問④「ホームルームや学校の中で役に立てることがあると思う。」では、「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が、本研究実践後のアンケートでは18.3%増の約1.4倍に増加した。これは、本研究実践をとおして、これまでのホームルームにおける自己の役割を再確認できたり、新たな自己の役割について発見できたりしたことが考えられる。しかし、この約1.4倍の増加割合は、5つの質問項目の中で最も少ない割合であった。これは、P9の仲間からの他者評価（資料1）からも「まじめ（生徒①②）」「思いやりがある（生徒②）」など抽象的な評価が多く、具体的な自己の役割まで結び付けることまで至らなかったことが考えられる。

<c 自分の能力や果たすべき役割を集団生活の向上にどう役立てて自己実現を図っていくか深く考えさせる。>

質問⑤「ホームルームや学校の中で自分のよさを生かそうと思っている。」では、「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が、本研究実践後のアンケートでは23.7%増の約1.6倍に増加した。これは、エゴグラムの結果から再認識できた自己のよさや、仲間が自分のよさを肯定的に評価してくれたことで、ピグマリオン効果「人間は期待された通りの成果を出す傾向がある（ロバート・ローゼンタール、1964）」が起き、集団に役立ちたいという思いが高まったことが考えられる。しかしながら、本研究実践において思考力、表現力、判断力等を高めるためには、自覚した自己のよさや個性、能力等を、今後の学校生活の中で具体的にどのように生かし自己実現を図っていくかを考えることで養われると本部会では捉えている。具体的な役割について話し合い活動の方法を工夫し充実させることで、互いの役割について深く話し合うことが可能となり、思考力、判断力、表現力等の育成について一層の改善

を図ることができると思う。

全体的な結果では、アンケートの全項目について心理検査や他者評価の実施前後で肯定的な回答が占める割合が各項目で2～3割程度有意に上昇している。従って、本研究実践は「自己理解等が十分図られていない集団に属する生徒に対して、思考力・判断力・表現力等の育成に有効(有意水準1%)」である可能性があると考えられる。

## (2) 実践事例2

教科等名	特別活動	科目名	生徒会活動	学年	1～3年次
------	------	-----	-------	----	-------

生徒会活動において、ワークシートを活用し自己理解等を深められるか検証する。また集団生活の向上のために進んで力を尽くそうとする態度を養うために、他者評価を行うことで、自己の個性や能力、特性をさらに理解できるかを検証する。さらに、事前・事後のワークシートの分析から、実際に生徒にどのような変化がみられたのかを検証する。なお、本実践事例における文化祭実行委員会とは、検証を行った学校の生徒会活動に位置付けられた委員会である。

### ア 活動名

生徒会活動「第10回 後夜祭」

### イ 活動の目標

- (ア) 後夜祭への取組を通して、自己や他者への理解を深めるなど、望ましい人間関係を形成するとともに、連帯感や所属感を高める。
- (イ) 生徒による主体的な活動(準備・運営・反省等)を通じて、集団の一員としての自覚を高めるとともに、互いに協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。
- (ウ) 自己の個性や能力等を踏まえ、各自が果たすべき役割や責任を考えることで、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。

### ウ 活動の評価規準

観点	ア 集団活動や生活への関心・意欲・態度	イ 集団の一員としての思考・判断・実践	ウ 集団活動や生活への知識・理解
評価規準	① 後夜祭の充実と向上に関わる諸問題に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に文化祭実行委員会としての活動に取り組もうとしている。	① 文化祭実行委員会の一員として、自己が担う役割について自覚している。 ② 全校的な視野に立って後夜祭への取組について振り返り、成果や課題、次年度への改善策など仲間の意見を尊重しつつ、考え、判断している。	① 後夜祭における文化祭実行委員会としての活動の意義を理解している。 ② 自己の個性や能力等を生かして、諸活動に参加する仕方等について理解している。

## エ 活動の指導と評価の計画

	活動内容	活動の主体	具体的内容	評価規 準
事前	後夜祭基本方針の策定	総務班	・後夜祭を行う意義や後夜祭の目標について話し合い、文章にまとめる。	ア-① ウ-①
	スケジュール決め	総務班	・当日に円滑な運営が行えるよう、日程について話し合い、スケジュールを決める。	ア-①
	後夜祭班の役割分担	総務班	・意義・目標を達成するために必要な役割について話し合い、人数構成を決める。	ア-①
	スケジュールに沿った事前準備	総務班 後夜祭班	・人数構成に基づき、後夜祭班生徒の役割分担を決める。 ・出演団体を募集し、決定する。 ・出演団体からの要望を取りまとめる。 ・リハーサルを実施する。 ・業者と打ち合わせを行う。	ア-①
当日	後夜祭本番	総務班 後夜祭班	・ステージの準備を行う。 ・計画に基づき後夜祭を実施する。 ・終了後の片付けを時間内に済ませる。	ア-① イ-①
事後	反省会①(本時)	総務班 後夜祭班	・心理検査等を用いた自己理解を踏まえ、後夜祭における自己の取り組み方について考え、話し合う。 ・後夜祭班としての取り組み方について考え、話し合う。	イ-② ウ-②
	反省会②	総務班 後夜祭班	・次年度の後夜祭で改善したい点等について話し合い、引き継ぎ資料を作成する。	ア-① イ-②

## オ 本時（事後指導 全2時間中の1時間目）

### (ア) 本時の目標

心理検査等によって自己理解を深めた上で後夜祭について反省を行うことで、各自の果たすべき役割を考えさせる。また、他の生徒の個性や能力を踏まえた上で、各自の果たすべき役割について考えることで、集団生活の向上に貢献しようとする態度の変容を促す。

### (イ) 本時の展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規 準・方法
導入	3分	・挨拶、出欠を確認する。 ・本時の内容・ねらいを確認する。	・グループ分けがスムーズに行えるよう、後夜祭での役割分担ごとに着席させる。	

展 開	42 分	<p><b>【ワークシートの記入】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの配布後、アンケートに記入する。</li> </ul> <p><b>【エゴグラムの実践】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エゴグラムの説明を聞き、活用方法を理解する。</li> <li>・各自でエゴグラムを行う。</li> <li>・エゴグラムの見方について確認する。</li> <li>・自分のエゴグラムのうち、最も得点が高い項目を確認する。</li> </ul> <p><b>【グループ活動】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短い時間で行う。</li> <li>・説明は簡潔に行う。</li> <li>・性格等を決定付けるものではないことを説明する。</li> <li>・自分の良いところに注目するよう指示する。</li> <li>・およそ4名ずつグループ分けを行う。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自、自分のエゴグラムの結果について、一番高かった項目をグループ内で発表する。</li> <li>・後夜祭における仲間の取組について、良い印象を受けた行動を各自の付箋に記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれ簡単にメモを取るよう指示する。</li> <li>・どうしても仲間の行動が思い出せない場合は普段の印象でもよいと伝える。</li> <li>・仲間の短所ではなく、よさを見付けるよう促す。</li> <li>・エゴグラムとの関連性もあれば書き加えさせる。</li> </ul>	
		<p><b>【相互評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ずつ順番に付箋を受け取り、仲間から自分の良かった行動を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を区切り、必ず全員が聞けるようにする。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解について実感したこと等を踏まえながら、自分の役割分担で更に改善できそうな点とその具体的方法について話し合い、グループごとに紙にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめるためのA3用紙(白紙)を各班に配布し、グループ全員の氏名を記入させる。</li> </ul>	イ-② ワークシート
ま と め	5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに本時の振り返りを記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エゴグラムと仲間の意見を振り返ることで、多面的な視点から自己理解等を深めさせる。</li> <li>・次回、各グループの意見をまとめ、来年度の引き継ぎ資料を作成することを伝える。</li> </ul>	ウ-② ワークシート

カ 本時の振り返り

- (ア) エゴグラムを行うことで、自分の知らなかった自分を発見する生徒や、自己認識と一致し、更に自己理解を深めた生徒もいた。
- (イ) 後夜祭での役割ごとにグループを分け、グループ内で相互に他の生徒の良い行動についてコメントを記入させた。これを交換した後、生徒一人一人に自分の良い点について発表させた。全員の生徒がグループのほかの生徒の良い点を挙げることができ、多くの生徒が具体的に他の生徒の良い行動を挙げる事ができた。年齢の異なる生徒集団において、先輩が後輩に評価されたことで笑顔になっているのが印象的であった。
- (ウ) 各自の性格や特徴を踏まえ、来年度の後夜祭で具体的に改善すべき点を話し合わせた。班ごとに具体的かつ実現可能性が高い意見を分かりやすくまとめることができていた。

(資料4) 実践事例2 ワークシート記入欄(エゴグラムの結果・仲間からの意見)

*振り返りをメモしよう	*振り返りをメモしよう	*振り返りをメモしよう	
SGEによって示された自分の傾向 円い気がかりな子供	SGEによって示された自分の傾向 お父さん好きだから、父親的にみんなの かもです。	SGEによって示された自分の傾向 周りを気にかける子供の 自覚状態 素直 協調的 柔軟性 他は他者	エゴグラムの 結果
登壇の誘導がスムーズで、 笑顔が素敵でした。	・とてもいい笑顔が素敵です！ ・ほめてくれる人が多かったです。	みんなのいい言葉がみんなにやってく、今年 も一歩進んでくれた ●● がんば ってほしいと思うので、ありがとう。	仲間からの 意見
いろいろ話さしてくれて、たくさん 利になってくれた。もうお疲れ様です。	実行委員長として積極的にみんなを まとめてくれたことが本当に助かりました！ ありがとうございました。 大感謝です。	初めての後夜祭で僕らと違ってみんなが 和に丁寧に仕事を教えてくれたこと お礼を言わせてください！	
いつもニコニコしてる 感じがいい。	委員長でいる姿がみんなに愛されて、 みんなを助けてくれたです。 僕も頑張りました！	SHOUTINGの役割も教えてくれて 良かったです。	
生徒④	生徒⑤	生徒⑥	

(資料5) 実践事例2 ワークシート記入欄(事後ワークシート自由記述欄)

生徒④

エゴグラムを通して、自己発見や自己理解について感じたこと、気付いたことなど記入してください。  
もう少し、自分を良く思おうとすべきだったと思った。自分を否定しすぎてたのかもしれない。  
まわりの人が私のこと分かってきてくれた。

仲間の意見を通して、自己発見や自己理解について感じたこと、気付いたことなど記入してください。  
みんなのコメントに、心があたたかくなった。ありがとうございました♡♡

生徒⑤

エゴグラムを通して、自己発見や自己理解について感じたこと、気付いたことなど記入してください。  
自分は協調性があるだけだと思って。

仲間の意見を通して、自己発見や自己理解について感じたこと、気付いたことなど記入してください。  
自分が思ってたより貢献してあげたなって思った。

生徒⑥

エゴグラムを通して、自己発見や自己理解について感じたこと、気付いたことなど記入してください。  
まてはまるのが多くなって、自分は周りに合わせる事が多くなったと改めて気付きました。  
そこはもっと積極的に発言して、周りの意見も取り入れられるようになりたいです。

仲間の意見を通して、自己発見や自己理解について感じたこと、気付いたことなど記入してください。  
自分が意識してやっていなかったことなどもあり、そこは自分の  
良さと向き合っていました。

## キ ワークシートの結果

### (ア) 結果の分析方法

結果の分析方法は実践事例 1 と同様である。

### (イ) 実践事例 2 の結果

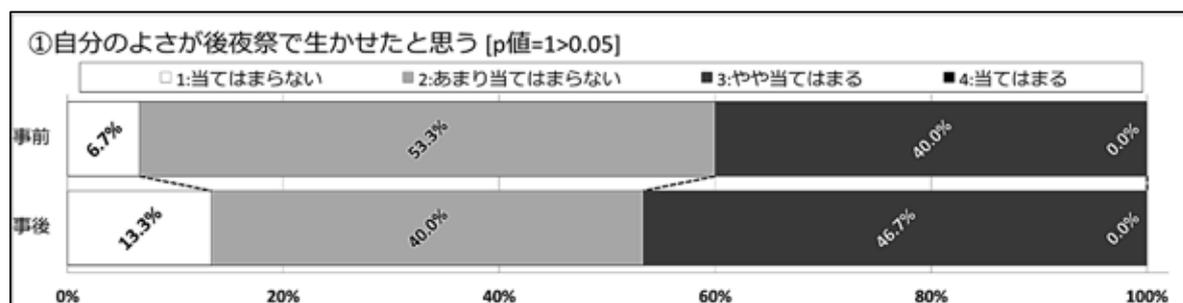
#### ワークシートから読み取れる実践前の生徒集団の特徴

実践対象となった生徒集団の特徴値は 2.56 であった。従って、「自己理解等が概ね図られている生徒集団」であったと言える。

※本部会では特徴値が 2.5 より大きい場合は「自己理解等が概ね図られている」と仮定したため。(P10 「特徴値」参照)

#### 事前・事後アンケートにおける回答割合の比較

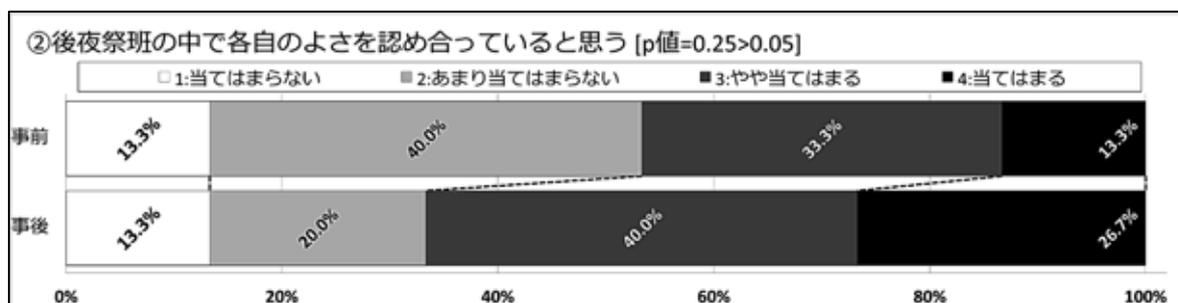
##### <グラフ 2-①>



##### <グラフ 2-①>の特徴

①より「自分のよさが後夜祭で生かせたと思う。」という項目に「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が 40.0%→46.7% (+6.7%) へと約 1.2 倍に増加した。また、「当てはまらない」と答えた生徒が 6.7%→13.3% (+6.6%) へと約 2 倍に増加した。

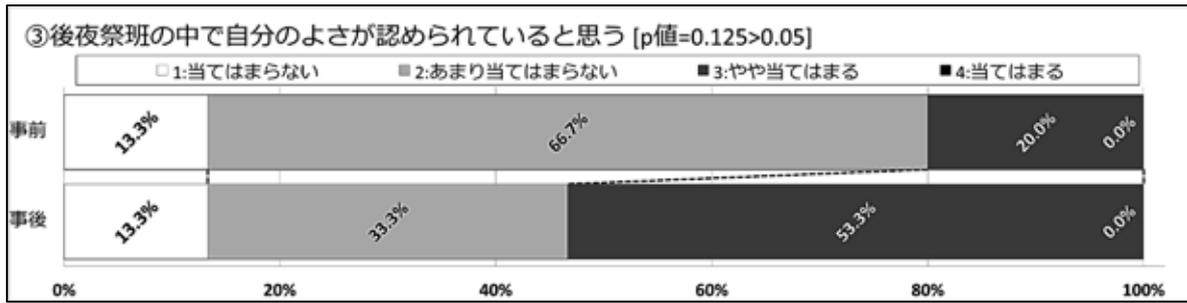
##### <グラフ 2-②>



##### <グラフ 2-②>の特徴

②より「後夜祭班の中で各自のよさを認め合っていると思う。」という項目に「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が 46.6%→66.7% (+20.1%) へと約 1.4 倍に増加した。また、「当てはまらない」と答えた生徒は 13.3%→13.3% (+- 0%) と変化はなかった。

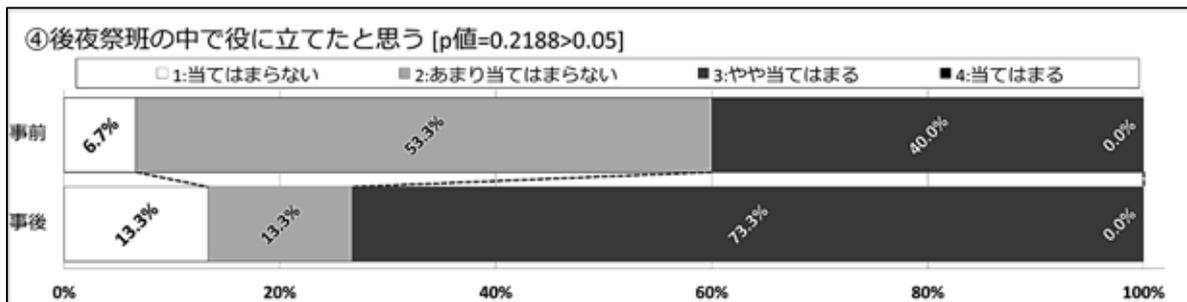
<グラフ 2-③>



<グラフ 2-③>の特徴

③より「後夜祭班の中で自分のよさが認められていると思う。」という項目に「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が 20.0%→53.3% (+33.3%) へと約 2.7 倍に増加した。また、また、「当てはまらない」と答えた生徒は 13.3%→13.3% (+- 0%) と変化はなかった。

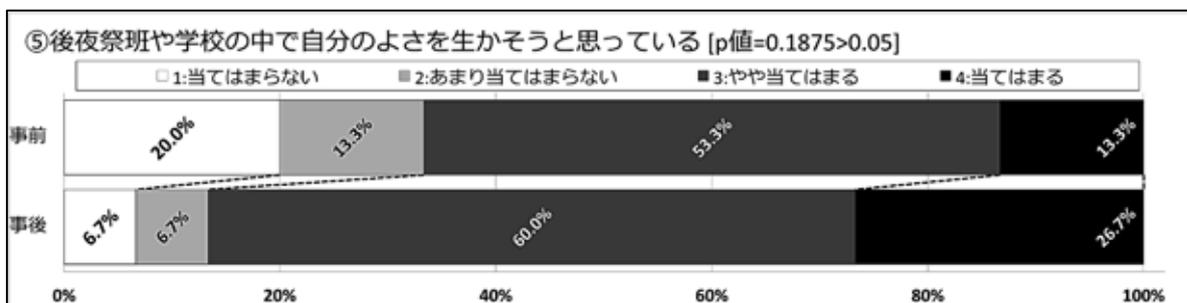
<グラフ 2-④>



<グラフ 2-④>の特徴

④より「後夜祭班や学校の中で役に立てたと思う。」という項目に「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が 40.0%→73.3% (+33.3%) へと約 1.8 倍に増加した。また、「当てはまらない」と答えた生徒が 6.7%から 13.3% (+6.6%) へと約 2 倍に増加した。

<グラフ 2-⑤>



<グラフ 2-⑤>の特徴

⑤より「後夜祭班や学校の中で自分のよさを生かそうと思っている。」という項目に「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が 66.6%→86.7% (+20.1%) へと約 1.3 倍に増加した。また、「当てはまらない」と答えた生徒が 20.0%→6.7% (-13.3%) へと約 3

分の1に減少した。

## ク 考察

### 事前・事後アンケートにおける回答割合の比較

本研究実践の対象となった生徒は、「特徴値が2.5より大きい」つまり、自己理解等が概ね図られている集団であると考えられる。

以下では、実践事例1の考察と同様に、具体的方策に示した3点について、アンケート項目との対応関係が表のようになると仮定する。

具体的方策に示した3点	該当のアンケート項目
a 生徒の自己理解を深めさせる。 (生徒個人としての自己理解)	①自分のよさが後夜祭で生かせたと思う。 ③後夜祭班の中で自分のよさが認められていると思う。
b 生徒に各自の果たす役割を自覚させる。 (集団の一員としての自己理解)	②後夜祭班の中で各自のよさを認め合っていると思う。 ④後夜祭班の中で役に立てたと思う。
c 自分の能力や果たすべき役割を集団生活の向上にどう役立てて自己実現を図っていくか深く考えさせる。	⑤後夜祭班や学校の中で自分のよさを生かそうと思っている。

以下、上記の表を基に考察を述べる。

<a 生徒の自己理解を深めさせる。(生徒個人としての自己理解)>

質問①「自分のよさが後夜祭で生かせたと思う。」について「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が、本研究実践後のアンケートでは6.7%増の約1.2倍の微増に留まり、エゴグラム等の実践が自己理解を深めることの効果について、確証するまでには至らなかった。一方で「当てはまらない」と答えた生徒が6.6%増の約2倍に増加した。これは、エゴグラムや他者評価を通じて自己理解が深まり、自分のよさが後夜祭で生かせなかったと自省したことも影響していると考えられる。P19の生徒⑥の自由記述からも、「(エゴグラムを行って)当てはまることが多くて、自分は周りに合わせることが多いと改めて気付きました。」と自己を振り返る記述が見られる。

質問③「後夜祭班の中で自分のよさが認められていると思う。」では、「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が、本研究実践後のアンケートでは33.3%増の約2.7倍に大きく増加した。これは仲間から肯定的な評価を得られ、自尊感情が高まったことが考えられる。P19の生徒⑤の記述からも、「自分は協調性がある。」「自分が思っているより貢献していた。」ことが仲間からの指摘で認識できたことが読み取れる。

<b 生徒に各自の果たす役割を自覚させる。(集団の一員としての自己理解)>

質問②「後夜祭班の中で各自のよさを認め合っていると思う。」では、「やや当てはまる・

当てはまる」と答えた生徒が、本研究実践後のアンケートでは20.1%増の約1.4倍に増加した。質問③「自分のよさが認められていると思う。」と比較して、増加の割合が少なかったのは、仲間のよさは認められるが、自分のよさは安易に受け入れられない状況があることが考えられる。P19の生徒④の記述(資料5)「もう少し自分を良く思おうとすべきだと思った。自分を否定しすぎなのかと思った。まわりの方が私のことを分かっている気がした。」からも、安易に自分のよさを受け入れることができないことが読み取れる。

質問④「後夜祭班の中で役に立てたと思う。」では、「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が、本研究実践後のアンケートでは33.3%増の約1.8倍に増加した。これは、特に他者評価をとおして、後夜祭での活動が仲間から肯定的に受け止められていたことを確認できたことが影響していると考えられる。P19の仲間からのコメント(資料4)にも「たくさん手伝ってくれた。(生徒④)」「実行委員長として、積極的に動き、全員をまとめあげてくれた。(生徒⑤)」「丁寧に係の仕事を教えてくれた。(生徒⑥)」など具体的にどんな行動がよかったかについて指摘が見られる。しかしながら、「当てはまらない」と答えた生徒は、6.6%増加の約2倍となっている。これも上記質問②で示したように、自分のよさを簡単に受け入れることができない生徒がいることが考えられる。

<c 自分の能力や果たすべき役割を集団生活の向上にどう役立てて自己実現を図っていくか深く考えさせる。 >

質問⑤「後夜祭や学校の中で自分のよさを生かそうと思っている。」では、「やや当てはまる・当てはまる」と答えた生徒が、本研究実践後のアンケートでは20.1%増の約1.3倍に増加した。P19の生徒の自由記述(資料5)「もっと積極的に発言しつつ、周りの意見も取り入れられるようになりたい。(生徒⑥)」からも読み取れるように、エゴグラムによる自己理解や仲間からの肯定的な評価を受けたことにより、周囲の期待に応えようと更に自己を高める課題を設定しようとする態度も見られた。

全体的な結果では、全てのアンケート項目について実践前後での回答の変化に有意な差は見られなかった。従って、本研究実践においては「自己理解等が概ね図られている生徒に対しては、思考力・判断力・表現力等の育成にあまり大きな効果が期待できない」と考えられる。特に、アンケート項目①における回答割合の変化については $p$ 値が1となっており、本研究実践による生徒の変容について確証を得ることができなかった。

実践事例2では生徒の思考力・判断力・表現力等を高めるため、自己理解について実感したこと等を踏まえながら、自分の役割分担で更に改善できそうな点とその具体的方法について話し合い、グループごとにまとめる活動を設定したが、役割分担や方法について具体的な結果を導き出すまでには至らなかった。自己を生かす役割や方法について生徒が具体的に見いだしていくことができるよう、効果的な話し合い活動の手法を研究していくことが、生徒の思考力、判断力、表現力等の育成に一層の効果を生むと考える。

## VI 研究の成果

本研究では「自己の特性や能力を集団生活の向上に活用することを通して、思考力・判断力・表現力等を育成し、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための評価の在り方」をテーマに置き、実践的な体験活動を通じて、自己理解を深め、各自の果たす役割を自覚させる指導と評価を行うことで、自ら考え判断する力が培われ、集団生活の向上に貢献しようとする態度の育成が促進されたと考えた。

実践事例1では、ホームルームにおいて生徒一人一人が自己の個性や能力をより深く理解し、互いに認め合うことで進んで集団生活に貢献する態度を育成することをねらいとし、心理検査を取り入れたワークシートの活用、相手の「短所」ではなく「長所」を見付ける活動、全員が参加できるように4人グループを基本とした話し合い活動を行った。

実践事例2では、文化祭実行委員会による後夜祭への取組を通じて、自己や他者への理解を深め、集団の一員としての自覚を高めるとともに、互いに協力して問題を解決しようとする態度を育てることをねらいとして活動を行った。実践事例1と同様に、心理検査を取り入れたワークシートを活用した後、後夜祭における仲間の取組についてよかった点を挙げる活動、今後の後夜祭に向けて改善するべき点を話し合う活動を行った。以下に成果を挙げる。

- ① エゴグラムなどの心理検査や仲間からの他者評価は、特に自己理解等が十分図られていない生徒に対し、新たな自分の気づきを促すなど、自己の個性等を生かして自己実現を図る過程で思考力・判断力・表現力等の育成に一定の効果があることが確認できた。
- ② 事前・事後アンケートの結果より、エゴグラムの結果や仲間からの他者評価を受けることで自信を得たり、自己肯定感が高まったりするなど、集団生活の向上に向けて自主的・実践的に貢献しようとする生徒の変容を見ることができた。
- ③ 意図的・計画的に知識等を活用する場面（自己理解から自己実現へ）を設定したことで、特別活動における思考力等の育成の方法について提言することができた。また、評価規準の明確化や一単位時間内の評価回数を厳選したことで、指導者が指導のねらいを明確にもち、指導に当たることができた。これは他教科等の授業改善にも活用できると考える。

## VII 今後の課題

以上の成果を踏まえ今後の課題となることは、自己理解等が概ね図られている生徒集団に対して、新たな自己の発見や理解を深めさせるための指導と評価の開発である。これには様々な心理検査やこれらに代わる教育相談、カウンセリング的な手法を実践・検証する必要がある。また、更なる思考力等の向上のためには、集団生活の向上に向けて、自己の個性や能力を生かせる具体的な役割を見だし、自己理解を自己実現に結び付けられるよう他者評価から多面的な視点を互いに享受できる効果的な話し合い活動等を充実させていくことが重要である。

なお、本研究実践では、心理検査を活用した自己理解等の深化による思考力等の育成について「自己理解等が比較的図られていない40名程度の生徒集団」と「自己理解等が概ね図られている15名程度の生徒集団」に対して検証を行ったが、母集団の大きさや個人の自己理解の認識度が及ぼす影響については、今後も検証することが必要であると考えられる。

## 平成26年度 教育研究員名簿

### 高等学校・特別活動

学校名	課程	職名	氏名
東京都立翔陽高等学校	全日制	教諭	◎黒尾 信
東京都立大崎高等学校	全日制	教諭	○庭野 裕
東京都立府中高等学校	全日制	主任教諭	古田 舞
東京都立大田桜台高等学校	全日制	教諭	木下 美穂

◎ 世話人      ○ 副世話人

〔担当〕 教育庁指導部高等学校教育指導課  
指導主事 渡辺 浩一

平成26年度  
教育研究員研究報告書

高等学校・特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成26年度第186号〕  
平成27年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 正和商事株式会社